

伝える！ 国連の仕事

国際的な政策 話し合いに若者の声を



「未来サミット」の前夜祭として開かれたイベント「アクション・デイズ」の様子。国連総会の議場をうめる若者たちの熱気に包まれました。司会も若者が務めました＝どちらとも9月、アメリカ・ニューヨーク

©UN Photo/Lesly Felipe

アメリカ(米国)のニューヨークにある国際連合(国連)の本部で9月、世界のリーダーたちが一堂に集まって会合や演説をくり広げる「国連総会ハイレベルウィーク」がありました。この連載でも7月に取り上げた「未来サミット」も開催。国連の動きを伝える国連広報センターの根本がお所长も現地入りしました。熱気につつまれた会場の様子を伝えます。



未来のための協定

新たな地球規模の課題に対応するため、国連本部で9月に開催された「未来サミット」が採択した成果文書。「持続可能な開発と開発資金」「平和と安全」「若者および将来世代」など五つの章による構成で、国際社会でめざす56の行動を示しました。

「若者および将来世代」の章では、すべての若者の人権を保護、尊重することや、政治的意思決定に若者がより参加できるようにすることが盛り込まれました。



国連の大きな会議にあわせ、国連本部のまわりに集まった世界中のメディアの人たち 根本さん撮影

将来世代を担当する特使も今後検討へ

国連本部は、9月が、1年の中で最もいそがしくなります。首脳レベルの会合が目白押しで、演説合戦も行われる「国連総会ハイレベルウィーク」が開かれ、世界中から、国のリーダーたちが

国連本部に集まるからです。リーダーたちは、それぞれの国の立場を世界に向けて演説するほか、「首脳レベル会合」と呼ばれる話し合いがたぎります。こうした大きな会議には、世界中からメディアが集まります。この時期、国連本部のまわりに、世界中のメディアのライブ中継用のセットや機材がすうりと並ぶのは、おなじみの光景です。

形だけでない「意味ある参加」求めて

未来サミットに先立ち、前夜祭として9月20、21日に開かれたイベント「アクション・デイズ」も印象深かった。若者たちが中心になってプログラムを企画。世界中から1600人もの若者がつどい、会場に向かうエレベーターも長蛇の列になりました。いつもはおそかな国連総会の議場が、若者たちの熱気に包まれました。

アクション・デイズでは、各国代表の若者が、環境や政治、教育、ジェンダー、先住民、障がい者など様々な分野について、自らの経験や視点をベースに、若者世代から政治や社会に求めることをうたえました。どのつたえにも中心にあったのは「形だけではいい、若者の「意味ある参加」の実現を求める思いでした。



ねもととおる 兵庫県出身。東京大学法学部卒、アメリカ・コロロンビア大学大学院修了。テレビ朝日のアナウンサー・記者などを経て、1996年から2011年まで国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）で勤務。国連世界食糧計画（WFP）広報官、国連UNHCR協会事務局長としても働いた。フリージャーナリストの活動を経て、13年8月から現職。